

少女像 撤去要求は不当

首 相 学術サイトが抗議声明

歴史に 向き合う

時代の正体

岸田文雄首相が4月の日独首脳会談で、ベルリンに設置された日本軍「慰安婦」をモチーフにした「平和の

少女像」の撤去をシヨルツ首相に要求していた問題で、日本軍「慰安婦」問題を発信する学術サイトの制作委員会が20日、撤去要求は他国への政治介入であるとともに「加害責任の否認」だと指摘、撤回を求める抗議声明を出した。

声明を出したのは、歴史学者を中心に、公文書や証言などの証拠を基に歴史的な事実関係や責任の所在を発信するサイト「FIGH T FOR JUSTICE」の制作委員会。

声明は、像や碑などのメモリアル設置は「人権侵害の被害回復措置の一つ」であり、過去に向き合い、知ることは「市民の権利」と強調。その上で、現地で

政手続きを経て、議会の支持も得て設置された少女像の撤去要求は「不当な政治介入であり、表現の自由への侵害であり、国際人権諸条約の否認」だと指摘した。さらに、首相の要請は、政

府に都合の悪い表現であれば「その国の行政的手続きも市民の民主主義的な合意も地方自治もすべて無視してでも、トップ外交を通じてのみ消そうとする利己主義的な政治の表現」と批判。かつての過ちを反省するどころか加害責任を否認しようとするもので「不当な介入をとりやめることを求める」とした。(柏尾 安希子)